

# Borland® StarTeam® 2009

新機能

**Borland®**

Borland Software Corporation  
8310 N Capital of Texas Hwy, Bldg 2, Ste 100  
Austin, Texas 78731 USA  
[www.borland.com/jp](http://www.borland.com/jp)

Borland Software Corporation は、本書に記載されているアプリケーションに対する特許を取得または申請している場合があります。該当する特許のリストについては、製品 CD または情報ダイアログ ボックスをご覧ください。本書の提供は、これらの特許に関する権利を付与することを意味するものではありません。

Copyright © 1995–2009 Borland Software Corporation およびその関連会社。すべての Borland のブランド名および製品名は、米国およびその他の国における Borland Software Corporation の商標または登録商標です。その他のブランドまたは製品名は、その著作権所有者の商標または登録商標です。

2009 年 6 月  
PDF

## StarTeam 2009 における新機能

このセクションでは、StarTeam 2009 における新機能の概要を提供します。

### このセクションの内容

#### [StarTeam Server 2009 の新機能](#)

StarTeam Server 2009 の新機能と変更点について説明します。

#### [StarTeam 2009 Cross-Platform Client の新機能](#)

StarTeam 2009 Cross-Platform Client における新機能について説明します。

#### [ビュー比較/マージの新機能](#)

ビュー比較/マージと VCMUtility の新機能と変更について説明します。

#### [Borland StarTeam 2009 Web Client](#)

新しい StarTeam 2009 Web Client について説明します。

#### [その他の StarTeam 2009 コンポーネントや製品の新機能](#)

本リリースにおける、その他の StarTeam 製品の新機能

# StarTeam Server 2009 の新機能

StarTeam Server 2009 の新機能は次のとおりです。

## オンライン完全削除

StarTeam Server 2009 では、オンライン完全削除が導入されています。

- ◆ オンライン完全削除では、サーバーの動作中にデータを完全削除でき、メンテナンスのダウンタイムを大幅に削減できます。
- ◆ オンライン完全削除プロセスは、[サーバー管理] ツールの新しい [オンライン完全削除] ビューで開始および停止できます。SDK スクリプトを記述して、オンライン完全削除プロセスを制御し、自動化できます。これにより、完全削除を指定日時に開始し、停止するようにスケジュールを設定でき、使用率が高いときに、データの完全削除を実行しないで済みます。
- ◆ 新しいオンライン完全削除は、従来のオフラインの完全削除より高速です。オフライン完全削除も StarTeam 2009 で利用できますが、今後のリリースでは削除される予定です。
- ◆ オンライン完全削除に関する変更は、複数のリリースにわたって段階的に行われる予定です。StarTeam 2009 では、新たに削除したデータを完全削除できるのは、サーバーを再起動した後だけです。
- ◆ オンライン完全削除は、サーバーの動作中はいつでも停止および再開できる、対話的なプロセスです。オンライン完全削除は、その時点の実行状態を記録し、停止された時点から再開できます。サーバー起動後は、オンライン完全削除を手動で再開する必要があります。
- ◆ ローカル サーバーと同様に、リモート サーバーでもオンライン完全削除を開始および停止できます。

## StarTeam 接続コントロール

StarTeam Server 2009 では、新しい `app-control.xml` ファイルをカスタマイズして、サーバーに接続できる各種のクライアント アプリケーションを管理者が細かく設定できます。この機能により、不要な SDK アプリケーションがサーバーに接続しなくなり、サーバー リソースの流出を防ぐことができます。

**注:** これは厳密には管理ツールであり、セキュリティ対策ではありません。

### *app-control.xml* 構成ファイル

サーバーは、StarTeam リポジトリのルート ディレクトリの下に `AppControl` サブディレクトリにある `app-control.xml` という新しい構成ファイルを検索します。新しい構成を作成すると、StarTeam Server 2009 によって、サーバー インストール ディレクトリの下に `AppControl` ディレクトリにある `app-control.xml` テンプレート ファイルからこのファイルが作成されます。

`app-control.xml` 構成ファイル (存在する場合) には、一連のルールが含まれます。各ルールにより、サーバーが、次の条件の 1 つまたは複数を満たしているかどうか、受信したクライアント接続をテストします。

- ◆ StarTeam SDK が特定バージョン以上である。
- ◆ アプリケーション名、接続ユーザー名、クライアント ワークステーション名のすべて、あるいはいずれかが、指定されたテキスト パターンに一致する必要がある。

サーバーは、`app-control.xml` ファイルにあるすべてのルールに対して、それぞれの受信クライアント接続をテストします。これは一致が見つかるまで、またはルール リストが完了するまで続けられます。一致が見つかった場合は、それ以上はチェックされず、接続ハンドシェイク シーケンスが再開されます。一致が見つからなかった場合は、接続が拒否されます。`app-control.xml` ファイルが `AppControl` ディレクトリにない場合は、サーバーにより、すべてのサポート クライアント アプリケーションの接続が許可されます。

## AllowedApp

**AllowedApp**:これはメインのルール要素です。**Name** 属性が必要で、これはクライアントアプリケーション名のテキストパターン(“クライアント識別文字列” など)を指定します。テキストパターンには、ワイルドカードとして使用するアスタリスク文字(\*)を使用できます。**Name** 属性の他にも、このノードでは、オプションで次の属性を1つまたは複数指定できます。

- ◆ **MinimumSDKVersion**:クライアントアプリケーションのビルドに使用した StarTeam SDK の最小バージョンを指定します。このフィールドの形式は **nn.nn.nn.nn** で、**nn** は正の値です。ドット付きの数字をすべて指定する必要はありません。たとえば、**MinimumSDKVersion=" 10.4"** と指定すれば、**10.4.x.y** 以上(**10.5**、**11.0** など)を指定することになります。
- ◆ **WorkStationID**:設定する場合、クライアントコンピュータ名に一致するテキストパターンを指定します。
- ◆ **Name**:設定する場合、StarTeam ユーザー名に一致するテキストパターンを指定します。

オプションのパラメータを設定していない場合、サーバーは対応する接続属性をテストしません。

## AppDefault

**AppDefault**:オプション要素の1つです。**AllowedApp** にリストされたパラメータの1つに対するデフォルト値を指定するのに使用できます。この要素の構文は **AllowedApp** と同様です。ただし、**Name** 属性にはデフォルト値がない点を除きます。デフォルト値が指定できるのは、**MinimumSDKVersion**、**WorkStationID**、および **UserName** です。

## StarTeam Server 2009 の他の機能

StarTeam Server 2009 の他の新機能は次のとおりです。

- ◆ StarTeam Server(Windows 版)で 64 ビットアーキテクチャがサポートされ、アクセス可能なメモリが増えました。これには Windows Server 2008(64 ビット版)が必要です。
- ◆ StarTeam Server 2009 では、他のすべての StarTeam 2009 新機能もサポートします。これには、変更パッケージ、異なるサーバーにある成果物間のリンク(外部リンク)の追跡などが含まれます。
- ◆ StarTeam Server 2009 では、新規ビューのデフォルトとして、“ファイル”タイプだけが事前選択された新規プロジェクトが作成されます。プロジェクトを作成した後に、ユーザーはプロジェクトプロパティを変更できます。任意の新しいビューに含めるアイテムタイプを変更できます。ただし、ユーザーが変更しない場合は、デフォルトで、作成時に、新しいビューにはファイルだけが含まれます。**メモ**: この変更は、既存のプロジェクトには影響ありません。影響があるのは、新しい StarTeam Server 2009(または StarTeam Server 2009 にアップグレードされた既存のサーバー)で作成された新しいプロジェクトだけです。プロジェクトプロパティに他のアイテムタイプを追加する場合(ビューを作成した後)、親ビューに含まれるアイテムが取り込まれません(ただし新しいビュー作成中は除く)。ユーザーが以前のアイテムを新しいビューに導入する場合は、親ビューから再ベースによって取得する必要があります。
- ◆ StarTeam Server 2009 では、コマンド処理パフォーマンスが向上しています。これはネットワークに対する読み書き処理を実行するために、サポートされた Windows 32 ビット版と 64 ビット版プラットフォームで、非同期 I/O を使用して実現しています。これは非同期 I/O サポートの第 2 フェーズです。第 1 フェーズは StarTeam Server 2008 R2 で、書き込み処理だけがサポートされていました。
- ◆ 新しい StarTeam Web Server では、新しい Web Client のサポートが導入されています。これは、StarTeam 2009 が最初のリリースです。
- ◆ その他にサーバーのパフォーマンスを向上するための変更が加えられています。
- ◆ Linux Server のインストール手順が、<http://techpubs.borland.com/starteam/> にある、メインの『StarTeam 2009 インストールガイド』(ST\_Install\_ja.pdf)に移動されました。
- ◆ StarTeam Server の [サーバー管理] ツールでは新しい Eclipse Info Center のヘルプを使用します。「その他の StarTeam 2009 コンポーネントや製品の新しい機能」の「ドキュメントの新しい機能」を参照してください。

## StarTeam 2009 Cross-Platform Client の新機能

ここでは StarTeam 2009 Cross-Platform Client での新機能と変更について説明します。

このリリースの新機能は以降のセクションで詳しく説明します。

- ◆ 変更パッケージ
- ◆ 外部リンク
- ◆ EOL 処理の向上
- ◆ Cross-Platform Client のその他の変更

### 変更パッケージ

StarTeam には従来から、組み込みワークフロー、カスタマイズ可能なワークフロー、処理リンク、処理タスク、ビュー比較/マージ(VCM)など変更管理(CM)をサポートする多くの機能が用意されています。StarTeam 2009 には包括的な**変更パッケージ**機能が追加されました。これはユーザーが、変更パッケージ オブジェクトを使用して、1 回のコミットにおけるすべての変更を追跡できる機能です。この新機能の結果として、従来のように VCM でタスクを処理するのではなく、VCM で変更パッケージを使用します。変更パッケージとは、StarTeam を機能拡張した、更新を追跡、管理できる変更管理機能です。変更パッケージは StarTeam 2006 リリースで初めて導入されたビュー比較/マージ(VCM)を発展させたものです。

新しい変更パッケージ機能の詳細については、“ビュー比較/マージの新機能”を参照してください。

### 外部リンク

新しい外部リンク機能では、異なるサーバーにあるアイテムをリンクする機能(サーバー間のアイテムのリンク)が利用できません。外部リンクを作成する処理は、基本的に、同一サーバーにあるアイテム間のリンクを作成する処理と同じです。ただし、外部リンクには、通常のリンクではなく外部リンクであることを明示するマーク(🔗)が表示されます。外部リンクだけを表示するか、すべてのリンクを表示するかを選択できる新しいオプションが [リンク] タブに追加されました。

- ◆ 標準リンクで利用できる操作(リンクの作成、リンクの完了、ドラッグ アンド ドロップなど)が、すべて同様に外部リンクでも利用できます。外部リンクを作成するには、リンクするアイテムを含む両方のサーバーのプロジェクトを同時に Cross-Platform Client で開く必要があります。
- ◆ [リンク] ペインには、ユーザーがログオンしているすべてのサーバーにある外部リンクを検索する機能もあります。
- ◆ 外部リンクを作成すると、外部リンクされているアイテムの詳細が [リンク] ペインに URL で表示され、そのアイテムを見つける方法がわかります。
- ◆ 外部リンクのオプションは標準リンクのオプションと同じで、リンクのプロパティを表示する機能などがあります。ただし、変動外部リンクと固定外部リンクは利用できません。
- ◆ 外部リンクには方向があります。そのため、リンクのソース アイテム(CR など)から外部リンクを見ても、外部サーバーにあるアイテム(その CR からリンクされたファイルなど)から外部リンクを見ても、ソース情報とターゲット情報は常に同じで、選択したアイテムに基づいて変わりません。
- ◆ 外部リンクを作成できるのは、外部リンクをサポートする StarTeam 2009 Server に存在するオブジェクトに対してだけです。また StarTeam 2009 Cross-Platform Client を使用する必要があります。StarTeam 2009 Server に存在する必要があるのは、外部リンクのソース アイテムだけです。
- ◆ 変更パッケージ間、または変更パッケージに対して外部リンクを作成できません。
- ◆ 標準リンクで利用可能な情報のうち、外部リンクで利用できない情報があります。外部オブジェクトからすべての情報(ファイル ステータス、外部サーバーでファイルをロックしたユーザー、オブジェクトのフォルダ パスの内容、オブジェクトが実際にあるフォルダなど)が利用できるわけではないからです。
- ◆ **アクセス権** ダイアログ ボックスに **外部リンク** コンテナ レベル アクセス権が追加されました。

## EOL 処理の向上

EOL 処理の向上により、固定の EOL 変換ファイルをさらによくサポートできるようになりました。たとえば、以前はチェックイン時に破損する可能性のあった、Unicode ファイルの EOL 変換が正確に行えるようになりました。

また、指定オプションに関係なく、すべてのプラットフォームで、ファイルを LF 形式でチェックアウトできます。さらに、EOL 形式が定義されると、更新ステータスが、すべてのテキスト ファイルで機能します。チェックアウトされたときに使用された EOL 形式は関係ありません。

他のクライアントとの互換性を保つため、チェックアウト時に [EOL の変換] が要求されていないと、EOL 形式が未定義の場合は、従来どおり、サーバーに追加したときの EOL 変換でファイルがチェックアウトされます。

StarTeam 2009 では、次の新しい EOL 処理が導入されています。

- ◆ このプロパティは、従来どおり Cross-Platform Client のアイテム ペインに [EOL 文字] として表示されます。
- ◆ EOL 形式プロパティに意味があるのは、チェックアウト操作中のテキスト ファイルだけです。
- ◆ EOL プロパティには次の値があります。
  - [未定義] (SDK では NULL) : StarTeam 2009 より前に追加されたファイルで使用。
  - [クライアント定義] : ワークステーションのデフォルト値またはチェックアウトごとの EOL 変換オプションを使用。
  - [固定 LF]、[固定 CR]、[固定 CRLF] : この EOL 形式が常に使用され、ワークステーションまたはチェックアウト時の変換オプションは無視されます。
- ◆ EOL 形式プロパティは Cross-Platform Client の **追加、チェックイン**、および **ファイルのプロパティ** の各ダイアログボックスで設定できます。
- ◆ Cross-Platform Client の追加またはチェックイン時の EOL 変換オプションは削除されました。
- ◆ デフォルトで、SDK は次の各条件に基づいて EOL 形式を算出します。
  - 新しいテキスト ファイルが追加されたとき、またはテキスト ファイルに新しいリビジョンがチェックインされたときに、そのファイルの EOL 形式が[未定義]である場合、ファイルの EOL 変換は、プラットフォームのデフォルトに一致し、EOL 形式は [クライアント定義] に設定されます。その他の場合は、EOL 形式は見つかった方式、**固定 LF**、**固定 CR**、または **固定 CRLF** に設定されます。
  - ユーザーは EOL 形式をいつでも任意の値 ([未定義]を除く)に変更できます。
  - EOL 形式の設定に関係なく、StarTeam 2009 Cross-Platform Client で追加またはチェックインされたテキスト ファイルは常に、データ保管庫で標準 (CRLF) 形式を使用します。

**注:** チェックアウト操作に対する自動 EOL 変換のデフォルトは、ユーザーがすでにオプションを定義しているのでなければ、「チェックがついた状態」です。2009 へアップグレードしたユーザーは、そのオプションに必ずチェックを付け、新しい EOL 形式の変更に対して正しく設定されるようにしなければなりません。

## Cross-Platform Client のその他の新機能

Cross-Platform Client には、さらに次の新機能が追加されました。

- ◆ StarTeam 2009 では “Me” クエリが導入され、クエリ作成時に特定ユーザー名を指定しないで、現在ログオンしているユーザー (“Me”) に対して評価するクエリをセット アップできます。
- ◆ **フォルダ** コンテキスト メニューの順序が再構成され、**アイテム テーブル** コンテキスト メニューと同様になるように、メニューの一貫性が向上しました。
- ◆ **ビューの選択** ダイアログ ボックスに新しいチェック ボックスが追加され、現在のビュー ウィンドウを選択したビューに変更しないで、選択したビューを新規ウィンドウで開くこともできます。

- ◆ フォルダ ツリーでは、新しいフォルダ アイコンが追加され、デフォルトの作業パスではなく、作業フォルダの代替パスを使用しているフォルダを示します。
- ◆ 新しいプロジェクトを作成するとき、これまでは、サーバーがプロジェクト プロパティのすべてのアイテム タイプを事前に選択していました。つまり、**プロジェクトのプロパティ** ダイアログ ボックスまたは **新規ビュー ウィザード** で、ユーザーが何も変更しなかった場合、新しいビューにはすべてのアイテム タイプが含まれていました。ベストプラクティスとして、新しいビューには **ファイル** 以外のアイテム タイプを含めないことをお勧めします。StarTeam Server 2009 では、新しいビューのデフォルトとして **ファイル** タイプだけを事前に選択して新規プロジェクトが作成されます。プロジェクトを作成した後も、プロジェクトのプロパティを変更できます。任意の新しいビューに含めるアイテム タイプを変更できます。ただし、何も変更しない場合は、作成時に、新しいビューにはデフォルトでファイルだけが含まれます。この変更は、既存のプロジェクトには影響ありません。影響があるのは、新しい StarTeam Server 2009、または StarTeam Server 2009 にアップグレードされた既存のサーバーで作成される新しいプロジェクトだけです。**メモ**：(ビューを作成した後に)プロジェクトのプロパティに他のアイテム タイプを追加する場合、親ビューに含まれるアイテムは取り込まれません(ただし新しいビュー作成中は除く)。ユーザーが以前のアイテムを新しいビューに導入する場合は、それらを取得するのに、ビュー比較/マージを使用して、親ビューからそれらを再ベースする必要があります。
- ◆ Closs-Platform Client は、組み込み比較ペインを使用する、ファイル以外のアイテムのプロパティの比較をサポートします。たとえば、アイテム ペインで 2 つの CR か、同じ CR の履歴リビジョンを 2 つ選択して、**ツール ▶ 比較** をクリックして、それらのプロパティを比較できます。組み込み比較ウィンドウが、ウィンドウの一番下に表示され、選択した CR それぞれのプロパティが表示されます。この新機能は、**内容パースペクティブ**、**変更パースペクティブ** 両方のすべての **アイテム** タブおよび **情報** タブに影響を与えます。
- ◆ ファイルの **チェックイン** ダイアログ ボックスには、凍結したリビジョン ラベルは表示されなくなりました。

## ビュー比較/マージの新機能

ここでは、ビュー比較/マージと VCMUtility の新機能と変更について説明します。

### 変更パッケージ

StarTeam には従来から、組み込みワークフロー、カスタマイズ可能なワークフロー、処理リンク、処理タスク、ビュー比較/マージ (VCM) など変更管理 (CM) をサポートする多くの機能が用意されています。StarTeam 2009 には包括的な**変更パッケージ** オブジェクトが追加されました。これは、1 回のコミットで行ったすべての変更を追跡できる機能です。この新機能の結果として、VCM は、従来の VCM 処理タスクの代わりに、変更パッケージを作成します。

変更パッケージにより、StarTeam の更新を管理、追跡する機能が拡張されました。変更パッケージは StarTeam 2006 リリースで初めて導入されたビュー比較/マージ (VCM) を発展させたものです。変更パッケージはターゲット ビューに適用する一連の変更を含むオブジェクトです。変更パッケージを作成するには、ユーザーはまず VCM セッションを開始します。これは、変更の定義、確認、テストを行うステージング領域として機能します。

VCM セッションは、保存またはコミットされた後に、ターゲット ビューで変更パッケージとして見ることができます。

- ◆ 新しい変更パッケージ アイテムを使用することで、マージ ポイントと処理タスクは、変更を追跡するために VCM セッションで使用されなくなりました。
- ◆ StarTeam ビュー ウィンドウに、複数のパースペクティブが導入されました。標準の **内容パースペクティブ** (StarTeam のロゴ アイコン) と **変更パースペクティブ** (標準アイコンのとなりにある新しいアイコン) をクリックで切り替えられます。これらの新しいパースペクティブ アイコンは、ツールバーに右揃えで表示されます。**変更パースペクティブ** を使用して、管理者は、たとえば、すべての変更パッケージ オブジェクトとそれらの変更パッケージに関する詳細を確認し、どの変更がビューに対してコミットされたかを見て、コミットするよう提案されている未コミットの変更パッケージ内の変更を確認できます。
- ◆ VCM セッションのメニュー項目が変更されました。たとえば、変更パッケージはオブジェクトなので、新しく **VCM セッション ▶ プロパティ...** メニュー項目が追加され、変更パッケージを開いて、VCM セッションの作業フォルダなどのプロパティを確認したり変更できます。メニューの変更には他にも、**VCM セッション ▶ 保存...** メニュー項目があり、まだコミットされていない状態の変更パッケージ オブジェクトを StarTeam Server のターゲット ビューに保存できるようになりました。確認のため他のユーザーに送信するのに、VCM セッションを **.vcmx** ファイルとして保存する方法として、**VCM セッション ▶ エクスポート...** は従来どおりサポートされていますが、**.vcmx** ファイルよりも変更パッケージを推奨します。新しい **変更パッケージ** メニューの詳細については、「入門」の「UI ツアー」の下の「変更パースペクティブ」を参照してください。
- ◆ 各変更パッケージは、一連の変更を表す、StarTeam の新しいオブジェクトであるので、StarTeam 2009 では、クライアントの一番下に新しく **変更** タブが追加され、変更パッケージの結果による、選択アイテムへの更新の表示をサポートします。**変更パースペクティブ** の各部の詳しい説明は、StarTeam ヘルプの「入門」の「UI ツアー」に記載されています。
- ◆ **変更パースペクティブ** で利用可能な他のオプションには、ツールバー ボタン、標準の **フィルタ** メニュー、左右レイアウトと上下レイアウトを切り替えられる **レイアウト変更** ボタンなどがあります。左右レイアウトでは、アイコンを使用して、**変更パースペクティブ** のビューアを、**詳細**、**履歴**、**ラベル**、**変更**、**再生** ペインの間で切り替えられます。上下レイアウトでは、一番下の各タブで、これらのビューアを変更できます。
- ◆ コンテキスト メニュー アイテムを使用すると、保存された変更パッケージの URL をクリップボードにコピーできます。これにより、他のユーザーが、ターゲット ビューへの URL を開いて、読み取り専用モードで変更パッケージを確認できます。VCM セッション全体の **.vmx** ファイルを送信する必要はありません。
- ◆ **再生** ビューアでは、ドラッグ アンド ドロップで、変更パッケージを別のビューに再生できます。VCM セッションで変更パッケージを再度開くこともできます。アイテムの **詳細 ▶ ビュー比較/マージ...** メニュー オプションを使用して、別のビューに **再生** を開始します。
- ◆ コミットされていない場合は、変更パッケージを削除できます。いったんコミットされると、削除操作は利用できなくなります。
- ◆ コミットされていない変更パッケージに排他的ロックをかけられます。一度に変更パッケージを変更できるのは、1 人のユーザーだけです。そのため、変更パッケージは、編集用に開くと、自動的に排他的にロックされます。

- ◆ **変更パースペクティブ** の **セッションの再起動** メニュー操作を使用すると、変更パッケージを VCM セッションで再起動(再比較)できます。
- ◆ [VCM セッション] メニューには 2 つの新しい項目 **変更パッケージ URL をクリップボードにコピー** と **変更パッケージをビューで選択** が追加されました。現在の VCM セッションが変更パッケージとして保存されている場合、これらの操作を使用して、より簡単に保存された変更パッケージにアクセスできます。
- ◆ 新しい変更パッケージの **レポート** メニューは、変更パッケージの **レポート** ダイアログ ボックスから利用できます。
- ◆ **変更パースペクティブ** は、変更パッケージのプロパティを比較する、**プロパティの比較...** メニューをサポートします。

## VCM のその他の変更点

説明済みの変更パッケージと外部リンクの他に、ビュー比較/マージには、次の各種変更があります。

- ◆ **ビュー比較/マージ ウィザード** に、新しく **除外プロパティ** ページが追加されました。このページで、すべての分岐可能なアイテム タイプのプロパティを除外できます。特定のアイテム タイプのプロパティのうち、セッションをコミットするときに変更をマージしたくないものを選択できます。
- ◆ **ビュー比較/マージ ウィザード** には、各ウィザード ページの右下に新しいボタンが追加されました。クリックすると、**ビュー比較/マージ ウィザード** のそのステップまでに、その VCM セッションで選択したものの詳細が表示されます。この情報ペインを非表示にするには、このボタンを再度クリックします。この情報ペインの利点は、**完了** をクリックする前に、そのセッションのすべての詳細を安全に確認できることです。何を選択したか確認するために、ウィザードの各ページを行ったり来たりする必要はありません。この方法で、別のものを選択することにした場合、ウィザードの特定のページに戻って変更を行い、その時点で **完了** をクリックできます。
- ◆ **比較**、**マージ** および **テスト** パースペクティブ ボタンがツールバーの右側に移動されました。

## マージポイント

変更パッケージが実装されたため、マージポイントは VCM セッションで使用されなくなりました。VCM は、マージポイントに比べてマージ機能が向上した、内部の“変更”オブジェクトを使用します。

## 新しいまたは変更済みの差分タイプ

差分タイプと操作に対して、次の変更が行われました。

- ◆ **[失敗]** は **[要レビュー]** に変わりました。**[要レビュー]** はすべての場合で、正式な操作になりました。
- ◆ **カスタム マージ タイプ**: 任意の差分タイプのデフォルト操作を **[要レビュー]** に変更することは、コミットの実行前にユーザーの操作が必要であることを示します。
- ◆ **[解決マークをつける]** ではマージポイントが作成されなくなりました。**[解決マークを付ける]** 変更オブジェクトが作成されるようになります。**[解決マークをつける]** は以前には許可されていなかったすべての場合で、正式な操作になりました。これは多くの差分タイプに影響します。
- ◆ **[Don't Care]** 差分タイプは修正されました。**ターゲットで変更あり**と**ターゲットで変更なし**の場合を区別できるようになりました。

たとえば、StarTeam 2008 Release 2 では、

[2000]: ソースで移動あり、ターゲットは他の分岐上に存在

```
ItemPresentInSource: true.
ItemPresentInTarget: true.
ItemDeletedInSource: false.
ItemDeletedInTarget: false.
```

```
ItemModifiedInSource: false.  
ItemModifiedInTarget: Don't Care.  
ItemMovedInSource: true.  
ItemMovedInTarget: false.  
ItemsInDifferentBranches: true  
Default Action: Ignore.  
Legal Actions: Ignore; Move; Move and Overwrite
```

StarTeam 2009 では、

[2000]: ソースで移動あり、ターゲットは他の分岐上に存在

```
ItemPresentInSource: true.  
ItemPresentInTarget: true.  
ItemDeletedInSource: false.  
ItemDeletedInTarget: false.  
ItemModifiedInSource: false.  
ItemModifiedInTarget: false.  
ItemMovedInSource: true.  
ItemMovedInTarget: false.  
ItemsInDifferentBranches: true  
Default Action: Ignore.  
Legal Actions: Ignore; Move; Needs Review; Mark Resolved
```

古い行では、**ターゲットで変更あり=false**

```
[2000]: Moved in source, target on different branch  
[2500]: Moved and modified in source, target on different branch  
[2510]: Moved and modified in source, target on different branch, same content.
```

新しい行では、**ターゲットで変更あり=true**

```
[2060]: Moved in source, branched and modified in target  
[2520]: Moved and modified in source, target on different branch, modified in target  
[2530]: Moved and modified in source, target on different branch, modified in target, same content
```

## VCM のアクション実行基準一覧への変更

StarTeam 2009 の VCM のアクション実行基準一覧が次のとおり変更されています。

```
[100]: Parent folder failed  
  
ParentFolderFailed: true  
  
Default Action: Needs Review  
Legal Actions: Ignore; Needs Review  
  
[110]: Parent folder ignored  
  
ParentFolderIgnored: true  
  
Default Action: Ignore  
Legal Actions: Ignore; Needs Review  
  
[200]: Target folder has floating share in source view
```

```
TargetFolderHasFloatingShares: true
```

```
Default Action: Needs Review  
Legal Actions: Ignore; Needs Review
```

```
[620]: Deleted in target (Promote)
```

```
MergeType: Promote  
ItemPresentInSource: true  
ItemPresentInTarget: false  
ItemDeletedInSource: false  
ItemDeletedInTarget: true
```

```
Default Action: Ignore  
Legal Actions: Ignore; Share; Reverse Share; Needs Review
```

```
[600]: Deleted in target
```

```
ItemPresentInSource: true  
ItemPresentInTarget: false  
ItemDeletedInSource: false  
ItemDeletedInTarget: true
```

```
Default Action: Ignore  
Legal Actions: Ignore; Share; Needs Review
```

```
[520]: New in source, shared (Promote)
```

```
MergeType: Promote  
ItemPresentInSource: true  
ItemPresentInTarget: false  
ItemDeletedInSource: false  
SourceItemOnRootBranch: false
```

```
Default Action: Needs Review  
Legal Actions: Ignore; Share; Needs Review
```

```
[510]: New in source (Promote)
```

## 処理タスクの解決の変更

2008 Release 2 の処理タスクの解決:

- ◆ ユーザーが処理リンクをたどる必要がある
- ◆ 処理リンクは削除されたアイテムを参照できない
- ◆ 処理アイテムの範囲で削除を反映できない

2009 の処理タスクの解決:

- ◆ 添付 \*.vcmx ファイルを開く
- ◆ 範囲を決定するために**アイテムの差分**を使用

これは、変更パッケージ オブジェクト、変更オブジェクトの使用と同じです。

## VCMUtility コマンドラインの変更

VCMUTILITY は、変更パッケージ オブジェクトと一体化しています。新しいコマンドとセッション オプションが、変更パッケージをサポートするために作成されました。

変更パッケージをサポートするために、VCMUTILITY コマンドに次の機能が追加されました。

### コマンド オプション

- ◆ {Open <Change Package name>}
- ◆ {Replay <Change Package name>}

### セッション オプション

- ◆ {Description <description>}
- ◆ {Name <Change Package name>}

### 他の構文オプション

- ◆ <Change Package name> (変更パッケージ名)
- ◆ <folder path> (フォルダ パス)
- ◆ <VCM exchange file> (VCM 交換ファイル)
- ◆ <VCM session file> (VCM セッション ファイル)

これらと他のすべての VCMUtility コマンドとオプションは、Cross-Platform Client ヘルプの「比較/マージ」参照セクションに記載されています。

## Borland StarTeam 2009 Web Client

新しい Borland® StarTeam® Web Client は、多数の同時ユーザーが 1 つまたは複数の StarTeam Server に接続して、プロジェクトにアクセスしたりアイテムを管理するのに使用できる、直感的な Web ベースのインターフェイスです。

Web Client のこの初期リリースでは、StarTeam の変更要求、要件、タスク、およびトピックの表示、作成、編集を行うユーザーのニーズに応えられるように設計された、一連の基本機能が用意されています。

### Web Client の機能

StarTeam Web Client では、以下の作業をサポートしています。

- ◆ StarTeam Server 上のパブリック フィルタを使った、閲覧するアイテムの範囲の絞り込み
- ◆ ファイル以外のアイテムの作成
- ◆ アイテムのプロパティの編集
- ◆ アイテムのロックとロック解除
- ◆ アイテムの詳細の表示
- ◆ アイテムの削除
- ◆ ローカル ドライブまたはネットワーク ドライブへのファイルのダウンロード
- ◆ アイテムやフォルダについて生成した URL を使ったビュー セッションの開始
- ◆ アイテムの履歴リビジョンの表示
- ◆ リビジョンのプロパティの表示
- ◆ リビジョンのコメントの編集

**注:** Web Client を使用するには、StarTeam のユーザー ライセンスが必要です。

## その他の StarTeam 2009 コンポーネントや製品の新機能

その他の StarTeam 2009 製品における新機能や機能向上を次に示します。

- ◆ ドキュメントの新機能
- ◆ StarTeamMPX の新機能
- ◆ Layout Designer の新機能

### ドキュメントの新機能

StarTeam 2009 の各アプリケーションでは、オンライン ヘルプ表示が、専用の Borland ヘルプ ブラウザから、Eclipse Info Center に変更されました。最終的に、Eclipse Info Center はすべての Borland 製品で採用されます。

Eclipse ブラウザが、今回 Cross-Platform Client、サーバー管理ツール、Layout Designer で導入されました。以前のリリースにおける “StarTeam の管理と利用” という統合ヘルプドキュメントが、使用しているアプリケーションの個別 (小サイズ) のドキュメントに置き換えられました。したがって、たとえば、Cross-Platform Client にはクライアント ヘルプ、およびコマンドライン ツールのヘルプ (VCMUtility を含む) があり、サーバー管理ツールには、サーバー管理ヘルプとコマンドライン ツールのヘルプだけが含まれます。

Eclipse Info Center のメリットは、フルテキスト検索、目次から一部のセクションやセクション全体を印刷できることです。

以前と同様に、Windows の [スタート] メニューからもヘルプを利用できます。Linux や Solaris では、[/PRODUCT\\_NAME/Documentation](#) フォルダにあります。

**注:** Linux Server のインストール手順が、メインのインストール ガイドに移動されました。

### StarTeamMPX の新機能

StarTeamMPX 2009 には次の新機能があります。

- ◆ マルチキャスト オプションが、StarTeamMPX から削除されました。
- ◆ ビュー固有のイベントに対してさらに細かいサブジェクトを使用する、新しい STEvent3 ストリームに各クライアントがサブスクライブします。各メッセージはトランザクション単位で圧縮され、バッチ処理されます。各クライアントの受信トラフィックが 70% ~ 80% 削減されます。StarTeam 2009 クライアントが取得するのは、StarTeam 2009 より前のクライアントに対してトラフィックとメッセージのわずか 2% です。
- ◆ 一部の “重複” キャッシュ メッセージ、冗長な、ファイル内容のメッセージなどは除外されます。これにより Cache Agent へのトラフィックが減ります。
- ◆ メッセージ処理の機能向上ではクライアントの変更は必要ありません。
- ◆ StarTeam 2006 より前のクライアントの接続が許可されていない場合 (サーバーの最小 API レベルが「> 1.25」のときに起こります)、STEvent イベント ストリームはブロードキャストされません。同様に、サーバーの最小 API レベルが「> 1.66」のとき、つまり、StarTeam 2009 以降のクライアントのみが許可されている場合には、STEvent2 イベント ストリームはブロードキャストされません。
- ◆ 新しい StarTeam 2009 イベント (変更パッケージ、トレース オブジェクト (外部リンク) など) は、STEvent3 ストリームへ送信されます。

### Layout Designer の新機能

StarTeam 2009 の Layout Designer の新機能を次に示します。

- ◆ Cross-Platform Client に用意されているフォームは、Layout Designer のサンプル フォームとして利用できます。
- ◆ Layout Designer では新しい Eclipse Info Center のヘルプを使用します。“ドキュメントの新機能”を参照してください。